



千八百七十六年

兵庫大阪貿易報告

大藏省  
翻譯課

3420



414  
A 3142  
16 15

兵庫大坂貿易報告書



館於テ



余謹於千八百七十六年第十二月三十一日ヲ以テ終ル一週年間  
兵庫大坂兩港ノ貿易ニ関スル報告書ヲ編製シ茲ニ左ノ統計表  
ヲ併セテ閣下ニ進呈スルノ榮ヲ有ス

兵庫

第一輸入表

第二輸出表

第三外國船隻出入表

第四輸出入稅并船稅表

第五貨幣輸出入表

第六外國人高社并居留人負表

大坂

第七輸入表

第八輸出表

第九輸出入稅并船稅表

第十貨幣輸出入表

第十一外國人高社并居留人負表

第十二外國船隻出入表

第十三兵庫大坂兩港ノ貿易并船隻ノ出入通計表

○兵庫港

千八百七十六年間兵庫港ニ於ケル貿易ノ總金額ニ即チ左ノ如シ

輸出

三、七四八、九六七弗

輸入

三、四〇一、二三〇弗

通計

七、一五〇、一九七弗

今之ヨリ千八百七十五年間ノ總金額ニ比較スルハ、百〇一萬七千八百廿二弗ヲ減却ス其前後兩年間ニ於ケル貿易ノ多寡ノ如キ、左ノ比較表ヲ以テ明瞭ナルヘシ(輸出入貨幣ヲ除ク)

輸入

千八百七十五年 五、三五四、九一七弗  
千八百七十六年 三、七四八、九六七弗

減

一、六〇五、九九〇弗

輸出

千八百七十五年 二、八一三、一〇二弗  
千八百七十六年 三、四〇一、二三〇弗

五八八、一二八弗

斯ク輸入ノ頻リニ衰減シテ止マルモ其輸出ニ至テ殆リ增加スルヲ得ルハ何ソヤ蓋日本國內主要ナル産品ノ輸出ニ於ケル之ヲ前年ニ比較スルニ殊ニ夥多ナルヲ致シ彼ノ茶葉ノ輸出ノ如

キハ最モ著シク増進セシカ故ナリ今神戸税関刊行ノ統計表ニ就テ輸出貨物ノ主要ナル者ヲ摘採シ以テ千八百七十五年ト千八百七十六年ノ兩年ニ比較ス若シ一タヒ此表ヲ閱覽セハ輸出ノ以テ増進スル所以ト輸入ノ以テ減却スル所以トヲ了知スルニ可ラン

輸入

名	稱	千八百七十五年	千八百七十六年
綿	布	一、三九五、二九六	一、一六七、六四一
毛	布	九一六、〇〇四	八八四、一七五
毛	織	八七〇、三六七	二三二、九八〇
金	及 屬	三三三、四三七	一八四、二〇七
兵	器 及 軍 用 品	二、〇五九	七六二、五五七
雜	貨 物	一、一〇二、七五三	七六二、五五七
雜	貨 物	七六一、〇四四	九二六、八〇七
雜	貨 物	五、三五四、九一七	三、七四八、九六七
	通 計		

輸出

名	稱	千八百七十五年	千八百七十六年
蠶	葉	一、二、一、二九	四〇、四六四
茶		一、六四九、九九八	一、六九五、五八三
銅		二〇八、二一八	一、二七、四二四
水	蠟	九三、二七七	一、三一、一〇九
燭	草	三八、〇一八	二〇、四一二
樟	腦	五六、一一九	一、二一、八四六
乾	魚	一、四、三一一	一、六七、四二三
雜	貨	六三九、〇二九	一、〇九六、九四九
通	計	二、八一三、一〇二	三、四〇、一、二三〇

余曩ニ兵庫港ノ貿易ニ関スル報告書ヲ編製シテ之ヲ閣下ニ進  
 呈シタリ今々具體式ニ倣テ兵庫大坂商賈會館ニ於テ編成セル  
 輸出入價格表(輸出入貨幣ヲ除ク)ニ基キ茲ニ兵庫大坂西港ニ於  
 テ既ニ取引シ了タル輸出入貨物ノ總額ヲ掲クルト左ノ如シ

輸入

輸出

千八百七十五年	五、七二六、七九七 <sup>冊</sup>	三、〇九二、四〇五 <sup>冊</sup>
千八百七十六年	四、六七九、九〇〇	三、四六四、四〇〇
通計減	一、〇五〇、八九七	增 三七一、九九五

此統計表ニ拠リ既ニ兵庫大坂西港ニ於テ取引シ了タル輸出入  
 貨物ノ總額ト前年間ノ總額トヲ比較シ求ルニ其輸入ハ百  
 五萬〇八百九十七弗ヲ減却スルニ拘ラス其輸出ニ至テハ却テ  
 三十七萬千九百九十五弗ノ増額アルヲ見ル  
 蓋神戸税関ニ於テ編纂セル統計表ト兵庫大坂商賈會館ニ於テ

スル者トテ對照シテ其價格ヲ比較スル片、其間少差異ナキヲ免カレサルノ理由タルマ暴ニ余カ進呈シタル西田ノ報告書ニ詳陳シテ餘ス所ナケレ。此田ニ於テ、唯左ノ數言ヲ記スルヲ以テ充分ナリト信ス何ソヤ彼ノ會館ニ於テ編纂セル統計表ハ千八百七十六年間ヲ以テ賣却シタル輸入貨物ノ價格、ミラ掲ケ其未タ售レサル者ニ悉ク之ヲ除キ去ルモ神戸税関ノ統計表ニ至テハ然ラス其售ル、ト售レサルトテ間ハスレテ本計内ニ算入スルヲ以テナリ又輸出ノ一項ニ関シテハ税関ノ統計表ニ掲載スル輸出總金額ノ彼ノ會館統計表ニ掲ケル所ノ計數ニ超過スル所以ノ者、他ナレ日本高買ニ從來ノ特權ヲ以テ内海ヲ廻漕シ終ニ輸出スルニ至ルモ會館ニ得テ之ヲ詳悉スル能ハワレ也

抑茶葉ノ貿易ニ於ケル其本港ニ在テ賣買スル極ノ稀ナリ

此ニ於テカ日本高買ニ陸続トシテ之ヲ横濱ニ搬送レテ海外輸出ノ用ニ充ツ是則テ税関ヲ經過シテ輸出スル茶葉ノ夥多ナル所以ニシテ其輸出ノ全額ニ就テ税関ト會館トノ間ニ其計數ヲ異ニスル所以ナリ見ヨ彼ノ會館ノ統計表ニ於テ、千八百七十六年間茶葉ノ輸出價格ヲ、僅カ百四十九萬六千弗ナリトスルモ税関ノ統計表ニ掲ケル所ノ者、百六十九萬五千五百八十三弗、多キニ至ルヲ

○輸入

神戸税関ノ統計表ニ拠リ千八百七十六年間本港ニ輸入シタル貨物ノ總價格ヲ窺スル片、三百七十四萬八千九百六十七弗ナリシカ故ニ之ヲ前年ニ比較スルニ既ニ百六十萬五千九百五十弗ヲ減ス今茲ニ之ヲ細說セ、綿布ノ輸入、即チ十九萬千六百十五弗ヲ減シ、毛布、三萬、八百廿九弗、毛綿交織、六十四萬

七千七百八十七弗、毛綿交織ノ輸入ニ至テ非常ニ減却スル所以  
後ハ千八百七十五年ニ於テハ、茶ヲ編纂セシ統計表ニ  
ハシテ千八百七十六年ニ於テハ、茶ヲ編纂セシ統計表ニ  
テ以テナリ故ニ其輸入ノ減却セシ實額ハ六十四萬七千七百八  
十七弗ニ非スシテ四十二萬三千二百〇四弗ナリカ  
金屬ハ十四萬九千二百廿弗、外國産雜貨ハ二十三萬四千  
二百三十七弗ヲ減シタリ

昨年ノ報告書ニ陳言スルカ如ク、今日日本國旗ヲ掲ケル汽船ノ  
兵庫ト東京ノ間ヲ駛走シテ外國貨物ヲ搭シ之ヲ本港ニ搬送ス  
ル者比々トシテ相續クニ至ル而シテ其本港ニ搬送スル所以、貨  
物ハ悉皆本縣地ノ靡消ニ充ル者ナレハ自ラ外商カ直接ニ欧米  
各國ヨリ輸入スル者ニ對シテ市場ノ利ヲ爭フノ状ナキヲ免レ  
ス憶ニ其然ル所以ノ者ハ他ナシ日本商買カ販賣スル所以、外産  
概ニ雜賣ニ出クムヲ購入セル者ニ係ルカ故ニ正價直ノ低廉  
ナレバ外商カ販賣スル貨物ノ不廉ナルノ比ニシテカレハナリ彼

支那人カ輸入スル外産ノ如キモ一タヒ支那ニ於テ雜賣ニ出タ  
ルヲ留置セル者ナレバ以テ其價直ノ低廉ナルヤ亦タ均シク外  
商ノ輸入ヲ掣肘スルニ足レリ其外商ノ輸入ノ日ニ衰減ニ就ク  
蓋斯之ヲ為ソノミ

今日千八百七十六年間兵庫港ノ貿易ニ就テ各種ノ品目ヲ臚列  
シ料ヲ鄙見ヲ開陳セントスルノ前ニ方リ一言ノ記セラル可  
ララル者アリ抑、商賈會館ニ於テ編纂シ懸懸ニ余ニ送ル所以、統  
計表ニ現ニ昨年間ニ賣却シタル外國貨物ノ全額ヲ掲ケル者ニ  
シテ之ヲ前年ノ計表ニ比スレハ一層ノ精微ヲ尽シ且信依スル  
ニ足ルヘキ者トス之ヲ如何ノ税関ノ統計表ニ附録ニ見ユ中依然  
外商ノ手ニ在テ猶未ダ售レアル者ヲ混全スルト今日ニシテ語  
ルヘケンヤ  
千八百七十六年外商ノ輸入マシテ外國貨物ハ其數量ト價格トヲ

間、ス悉ク非常ノ減數ヲ生シ現ニ今年ノ初期七箇月間ニ在テ  
「外商ノ貯藏スル貨物ニ就キ綿布ノ如キハ實ニ堆積シテ棟ニ  
充ルニ至ルモノ之ヲ顧ミル益ク當時ニ於テ其價値ノ低廉ナ  
ルハ外商ノ損失スル所蓋シ尠ク非シルヘシ其後第八月ノ下  
旬ニ至テハ外品ノ需求頗ル多ク随テ其價直ヲ騰翔セリ此ニ於  
テハ外商ノ時機ヲ過クテ貯藏貨物ノ大半ヲ賣却スルヲ得タリ  
ト雖モ談頃、又再々日本商賈ノ手ニ至テ停滯シ終ニ此輩ヲシ  
テ代價皆濟ノ効ヲ履踐セシムルノ困難ヲ注シタルヲ以テ夫ノ  
一時ノ好果ハ偶惡因ヲ招クノ媒ト爲リ其辛酸ノ状タル却テ前  
ノ七箇月ヨリ甚シキニ至レリ又今年ノ終ニ至テハ日本國內ノ  
二三州ニ政治ノ騷亂ヲ醸シ日本商賈ハ爲ノ遅々シテ外品ノ  
購入ニ着手スル益キヲ以テ輸入ノ衰減スルハ更ニ一層ノ甚シ  
キニ及ヘリ

之ヲ要スルニ過ル十二箇月ハ在留ノ外國商賈、取リテハ實ニ  
不幸ノ時期タリシト云フラス本縣地内ニ於テ外品ヲ靡消スルノ  
額ニ至テハ曾テ減少シタルニ非ス今ヤ日本ノ汽船ハ低廉ノ運  
費ヲ以テ内海ヲ廻漕シ大ニ海運ノ便ヲ与フル復々昔日ノ比ニ  
非ラレハ日本商賈ハ外品ノ良否ヲ選擇シテ之ヲ購入スルハ必  
シモ一區ノ地ニ於テスルヲ須ヒス是横濱ニ輸入スル外品ノ陸  
送トシテ本港ニ輻湊スル所以ナリ而シテ其統計表ノ如キハ外  
人ノ得テ詳悉スヘキ者アラサルヲ以テ備ワシ之ヲ開申スルニ  
由リシト雖モ姑ク余カ聞知スル所ニ從フキハ其總額ハ却テ直  
接ニ外國ヨリ輸入スル者ニ超過スト云フ果シテ然ラハ横濱ノ  
統計表ニ掲クル輸入貨物ノ一半ハ少クモ本縣地ニ於テ靡消ス  
ル所ノ者ナリト云ハサル可カラズ

千八百七十六年間ノ輸入貨物ニ就テ茲ニ主要ナル品目ヲ掲ク



丁即チ左ノ如シ

生金巾

該品ノ靡消ハ漸ク以テ減却シ既ニ千八百七十三年間ノ輸入總額ハ五十六萬五千反ナリシカ千八百七十四年ニ至テ四十八萬五千四百〇七反ニ減シ千八百七十五年ニ於テハ更ニ減シテ三十六萬〇三百五十八反ト成リ遂ニ千八百七十六年ニ及テ僅ニ二十五萬四千八百六十五反ヲ輸入スルト至レリ蓋其輸入ノ減却スル所以タルヤ之ヲ探究スルハ回ヨリ容易ニ非スト雖凡人民ノ日々ニ豊富ニ歸スル以テ縮布ヲ需ムニ足リ以テ其他ノ布帛ヲ求ルニ足ルカ為メナルヘシ

抑該品ノ輸入ハ恒ニ支那人ノ手ヲ經テ上海ヨリスルヲ以テ其質タニ極メテ粗惡ナリ而シテ其精好ナル者ノ如キハ今日ニ於テハ人ノ之ヲ需ム者ナク恰モ昔日ト相反ス之ヲ要スルニ金巾

ノ市場ハ終歲好景ヲ呈スルニ至ラス唯第十月ニ在テ八万反ヲ賣却セタルヲ以テ前後未曾有ノ幸運トスルニ過キサルノミ

緋金巾

千八百七十六年間ニ於テ賣却セタル緋金巾ノ總額ハ五萬〇七百反ナリシカ故ニ之ヲ前年ノ輸入額ニ比較スルモ其減差ハ僅カナルノミ而シテ其總額ノ内一万三千八百反ハ全ク第十月ヲ以テ賣却セリ將タ其市價ノ如キハ當時ニ於テ甚タ低廉ナリシヲ以テ外商ニシテ英國製ノ精好品ヲ輸入シタル者ハ其損スル所ヲ以テ益スル所ヲ償フニ足ラザリシナラン

黒天鷲絨

該品ノ靡消ハ一般ノ輸入ノ衰減スルニ拘ラス却テ前年ヨリ若干ヲ増加シ現ニ千八百七十五年ニ於テハ一萬六千五百反ヲ輸入セシカ千八百七十六年ニ至テハ二萬二千三百四十反ノ多キ

ニ及ヘリ之ニ及レテ其價直ノ如キハ恒ニ低點ニ在テ年ヲ終ル迄騰貴スルニ至ラス之ヲ千八百七十五年ノ市價ニ比スルニ少クモ一及ニ付キ一弗ノ減差ヲ生ス

寒冷鈔

該品ノ靡消高ハ六万千六百九十及ニレテ之ヲ千八百七十四年ニ比スルハ非常ノ衰減ヲ為スカ如クナレバ千八百七十五年間ノ四萬四千六百及ニ對比シ來ル片ハ頗ル其靡消ヲ増加セリト云ハカハ可ラス將タ其市價ハ終歲漸ヲ以テ低減セルモ未タ曾テ俄然タル變更ヨルヲ見ス

縮緬吳呂

千八百七十六年ニ於テ賣却セル縮緬吳呂ノ總額十八萬五千二百廿五及ニレテ其價格ハ百〇四万千弗ナリレヲ以テ之ヲ千八百七十五年ニ比較スル片ハ一萬六千百十四及ト四万八千六百

七十一弗ノ減差ヲ生ス蓋該品ノ輸入ハ今日ニ至ル迄獨乙仏蘭而商社ノ專スル所トナリ其魚色ノ者ヲ輸入スル甚タ多シ是其需用ノ當時ニ感ナリレヲ以テナリ而シテ尋常ノ品等ニ屬スル縮緬吳呂ノ價直ハ第十月ニ在テ一碼ニ付キ廿一「ロンド」ノ最頂點ニ達シタリレカ幾ナラスレテ邊ニ低減レ年ヲ終ル迄前日ノ價位ニ復スルヲ見カリキ

黑絹吳呂

該品ハ之ヲ前年ニ比スルニ其需求ノ減スル殊ニ甚レク其價直モ亦均シク非常ノ減差ヲ生セリ而シテソノ昨年ニ在テ輸入セシ者ハ其質粗惡ニレテ悉ク支那人カ上海ヨリ齎來スル所ニ係ル

羅紗

該品ノ市場ハ非常ノ衰憊ヲ極メ之カ債主タル者ハ著ルニ損

害に陥ルニ非ケルヨリ、復タ之ヲ賣却スルヲ得タルニ至ル抑  
羅紗ノ需用ニ於ケル軍人巡查ノ被服ニ供スル蓋少シニ非スト  
虽モ其之ヲ輸入スルマ特別ノ注文ニテ中央政府ノ命スル所ヲ  
リ、將タ其輸入ノ総額、如キハ横濱ノ統計表ニ掲ケテ遺ス所ナ  
カレヘシ

### 鐵

該品ノ輸入ハ頗ル多額ニシテ現在賣却トタル者四万四千五百  
廿「ピク」ルノ多キニ及ヘリ然レハ其價直ニ至テハ始終低點ノ地  
位ヲ離レズ現ニ第一月ニ於テ小釘鍍ノ市價ハ一「ピク」ルニ付四  
弗廿五「マン」トナリシカ其後漸ク以テ低減シ終ニ第九月ニ至テ  
三弗三十五「マン」ト迄ニ降下シタリ尔來幾ナラズシテ稍其價直  
ノ騰貴スル魚キニ非スト虽モ復タ三弗七十「マン」トヨリ昇ルニ  
至ラス

### 砂糖

砂糖ハ猶依然トシテ主要ナル輸入品ノ位置ヲ保持シ現在賣却  
シタル総額ハ五万四千百七十「ピク」ルナリシヲ以テ之ヲ千八百  
七十五年間ノ輸入ニ比較スルハ一万余五百「ピク」ルヲ増過ス  
ルノ割合ナリ蓋シ之ヲ輸入スルマ概テ支那人ノ手ニ在テ其品  
種ハ臺灣ニ産スル者タリ而シテ其市價ハ當時極メテ低廉ナリ  
シカ故ニ充分ノ利潤ヲ得ルニ至ラサルヘキ也

### 石炭油

石炭油ノ靡消ニ至テ著ルキ衰憊ヲ生シタルノ憑証ハ千八百七  
十五年間ニ於テハ七万三千八百七十二箱ノ賣却高ナリシニ當  
年ニ至テ五万四千百七十箱ニ迄減却シタルヲ以テ瞭然ナリ夫  
従前ノ市價ハ一箱ニ付キ二弗四十「マン」ト乃至二弗六十「マン」ト  
ノ間ニ在リシニ千八百七十六年ノ終ニ至テ三弗九十「マン」トノ

高價に至ル。何ソヤ憶。米國。於テ製油費ノ益々高直ナルニ  
根スルカ為ノニシテ其輸入ノ衰減スルモ亦蓋之ニ基スト云ハ  
カル可ラス

輸出

当年ノ輸出總金額ハ三百四十六万四千四百弗ニシテ之ヲ千八  
百七十五年間ノ輸出金額三百。九万二千四百。五弗ニ比較シ  
来ルキハ全然三十七万九千九百九十五弗ヲ増過スルノ割合ナリ  
今之ヲ細觀スルニ木蠟。樟腦。米。稻。苜蓿。寒天。及ク珞器ノ輸出ハ前年  
ニ若干ヲ増過シ之ニ及シテ茶葉。烟草。銅。昆布。及ク畜獸類ハ前年  
ニ若干ヲ減却ス

茶葉

本地ニ於テ茶葉ヲ産スルヤ其量ノ夥多ナル實ニ屈指ニ違ハス  
而シテ本港輸出ノ總金額ニ就キ現ニ百四十九万六千弗ハ茶葉

ヲ以テ填補スルニ至レリ蓋シ本港ヨリ直接ニ外國ニ輸出セ  
ンヲ要シ業既ニ船隻ニ塔載シタルノ量ハ六百四十七万。六百  
廿四磅ナリト虽モ若シ横濱ニ廻漕シテ相装ノ次序ヲ終ヘ後テ  
再々外國ニ輸送スル者七千七百磅ヲ加算スルキハ其總計ハ七  
百四十九万七千二百廿四磅ノ巨額ニ至ル而シテ此總額ヲ以テ  
千八百七十五年間ノ七百六十四万八千九百六十磅ニ比スレハ  
頗ル其輸出ノ量ヲ減却スル魚キニ非スト虽モ今日日本商賈ハ  
陸續トシテ茶葉ヲ横濱ノ市場ニ輸送シ外國輸出ノ用ニ供スル  
蓋尠少ニ非カレカ故其間接ニ本港ヨリ輸出スル所ノ者ヲ加算  
セバ其總額ハ必ス前ニ掲クル所ノ計數ヨリ多カラサル可カラ  
ス將タ其統計表ニ至テハ之ヲ今日ニ得ルニ由テシト虽モ若シ  
横濱ノ統計表ニ就テ茶葉ノ輸出高ヲ察ムルキハ其若干ハ必ス  
本港ヨリ廻漕セル者タルヲ思ハサル可カラズ千八百七十六年

間茶葉ノ市價ハ殊ニ低降シテ千八百七十五年ヨリモ甚シトス  
 茲ニ千八百七十四年乃至千八百七十六年ノ間中等茶葉ノ價格  
 フ比較スレバ即チ左ノ如クナルニ至ル

第 一 月	千八百七十四年	千八百七十五年	千八百七十六年
第 二 月	三十四弗	三十五弗	三十六弗
第 三 月	三十四弗	三十五弗	三十六弗
第 四 月	三十四弗	三十四弗	三十六弗
第 五 月	三十五弗	三十五弗	三十弗
第 六 月	三十五弗	三十三弗	十九弗
第 七 月	三十六弗	三十二弗	二十弗
第 八 月	三十六弗	三十一弗	十九弗
第 九 月	三十七弗	三十一弗	二十一弗

第 十 月	三十七弗	二十九弗	二十二弗
第 十 一 月	三十六弗	二十八弗	二十一弗
第 十 二 月	三十六弗	二十七弗	二十弗

此比較表ニ拠ルニ茶葉ノ市價ハ千八百七十五年第七月以降新  
 茶収獲ノ候ニ方リ一時騰貴スルヲ除クノ外其趣向ハ恒ニ低點  
 ニ傾クテ見ル是必竟「ウーロン」ト稱スル臺灣産茶ノ亞墨利加  
 ノ市場ニ輻輳スル日一日ヨリ多ク今ヤ日本産茶ニ對峙シテ商  
 利ヲ争ヘハナリ而シテ其茶葉ノ質ク劣シト日本製ノ者ニ髣  
 髴タリト云フ憶ニ合衆國ニ於テ茶葉ヲ靡消スル一年ハ一年ヨ  
 リ多ク加フヘシト虽モ未タ以テ日本州内之ヲ栽培スルノ盛  
 且大ナルノ以ニ非ス果シテ然ラバ他ノ地方ニ在テ日本茶ヲ賣  
 却スルニ足ルヘキノ市場ヲ查出シ得ルニ非アルヨリ其價直  
 ハ蓋シ低減シテ終ニ前日ニ復スルノ期ナカルヘキ也

千八百七十六年ノ始ヨリ新茶ノ市場ニ現出スル間ニ在テ茶  
葉ヲ購入シタル総額ハ僅ニ五千「ピク」ニ過キワリキ蓋新茶ハ  
茅五月四日ニ於テ始テ市場ニ現出シ其後數日ノ間ハ其價格ノ  
極メテ不慮ナルヲ看シモ新茶ノ供給陸續トシテ絶ヘツルニ至  
テハ其勢自カラ價格ノ低減ナルニ趣キ終ニ千八百七十五年ノ  
全時期ニ比スレハセ弗乃至十三弗ノ減差ヲ生スルニ及ヘリ斯  
ノ如キカ故ニ其市場ニ齎來マシ新茶ノ大羊ハ之ヲ第十月前ニ  
於テ購入シ其剩ス所ノ者甚タ少キヲ以テ時機ニ後ルハ者ハ為  
メニ茶葉ノ精粗ヲ識別シテ購入スルニ足ルヘキノ品種ヲ得ル  
ヲ能ハス是ヲ以テ其需求ノ減却スルヤ殊ニ甚レキニ及ヘリ之  
ヲ要スルニ全年間市場ニ搬致シタル茶葉ハ衆人ノ貯望スル所  
ニ及レテ其量甚タ敷カリキ如斯ハ畢竟茅三期摘ノ茶葉ノ缺乏  
ナルカ為メニ非ランヨリハ内地ニ於テ茶葉ノ價格極メテ低廉

ナルヤ彼ノ製茶家ヲシテ茅三期ノ茶葉ヲ摘マシタルニ足ラ  
ルカ為メナルヘシト思ハル

銅

千八百七十六年ニ於ケル銅ノ輸出高ハ僅ニ五千八百二十三「ピ  
ク」ニシテ之ヲ千八百七十三年ノ輸出高二万四千四百二十八  
「ピク」ニ千八百七十四年ノ一万七千五百三十二「ピク」ニ千八百七  
十五年ノ一万千八百九十八「ピク」ニ比スレハ其輸出ノ減却ス  
ルヤ殊ニ甚レク今ヤ殆ト此一品ヲ輸出品目中ヨリ除去メント  
スルノ勢アルニ至レリ蓋シ今年ニ於テ日本政府ヨリ發行スル  
所ノ銅貨タルヤ其數回ヨリ僅少ナルニ非ラレハ其造幣局ノ需  
用ニ供タルハ必ス本縣地ニ產出セル者タルニ相違ナレト雖モ  
未タ以テ僅ニ三年ノ星霜ヲ經ルニ隨テ千四百七十噸ノ巨額ニ  
遷ニ減シテ三百四十噸ヲ輸出スルニ至ルノ原因トハ為スニ足

ラカス也全年ノ終ニ至ル迄銅ノ價格ハ廿二弗五セシト乃至  
廿四弗五セシトノ間ニ在リシヲ以テ今之ヲ平均スルハ大  
約一噸ニ付キ八十弗ノ割合ト為ル然レ此原價ニ加算スルニ  
輸出税、運費、及ヒ其他ノ雜費ヲ以テモヨ歐洲ノ何ノ市場ニ向テ  
之ヲ輸出スルノ利益アリトスル身

烟草

烟草ノ輸出ニ於テモ亦均シク著ルキ減差ヲ生スルヲ見ル既ニ  
千八百七十四年ニ於テハ九千六百四十九セクルノ烟草ヲ輸出  
シ千八百七十五年ニハ五千四百十六セクルヲ輸出シタル均ラ  
ニ千八百七十六年ニ至テ其量ハ減シテ二千五百七十六セクル  
ノ數キ及ヘリ斯ク其輸出ノ年ヲ逐テ非常ニ減却スル所以ハ  
全ク曩ニ進呈スル報告書中ニ開陳スルカ如ク日本ノ産出者カ  
之ヲ乾燥スルニ曾テ注意スル所ナキヲ以テ外商ハ為ノニ屢々

損失ニ陥リタルニ根基マシムル非ラセ也將々龍動ニ向テ輸出  
セル極製烟草ノ如クハ頗ル高直ノ價格ヲ有セケリキ

木蠟

該品ハ一方ニ向テハ龍動ニ於テ之ヲ靡消スルノ極ノテ夥シキ  
ト他ノ一方ニ向テハ日本州内其價直ノ不廉ナラワルトニ依テ  
大ニ之ヲ輸出ラ増加シ現ニ千八百七十五年ニ於テハ一万〇〇  
五十六セクルノ輸出高ナリシカ千八百七十六年ニ至テハ一万  
四千五百十六セクルノ多キニ及ヒ其價格ハ一セクルニ付キ八  
弗五セシト乃至十弗五セシトノ間ニ在リキ然ルニ頃口英  
國ヨリ到着スル所ノ信報ニ拠ルニ昨年ノ暮ニ至テハ木蠟ノ市  
場ニ鬱滞スルヤ為メニ其價格ヲ減スルニ及ヘリト若シ此報道  
ヲシテ果シテ確實ナラシメバ今日ニ至テ曩ニ輸出タル木蠟  
或ハ過多ナルニ非ランカラ悔アルヲ得アル也

樟腦

該品ノ輸出ハ過ル三年間ニ於テハ頗ル著實ノ状アルヲ致シ其  
千八百七十六年間ニ輸出スル者ハ八千五百九十「ロ」ナリキ蓋  
シ外高カク之ヲ購入スルヤ預メ本地ニ搬送スルノ前ニ於テ蹄鈎  
スル所ニ係リ其品種ハ土佐ニ産スル者多キニ居ル將ク今年間  
ノ價格ニ至テハ一「ロ」付キ十二兩五「ロ」乃至十五兩  
五十「ロ」ノ間ニ在リシヲ以テ之ヲ従前ノ價格ニ比スレハ頗  
ル騰貴シタリト云ハサル可カラズ

米穀

米穀ハ千八百七十五年ノ統計表ニ於テハ曾テ輸出スルヲ見ツ  
リシカ昨年ニ至テ新タニ輸出品ノ地位ヲ占有シ現ニ其輸出高  
ハ十六万。八百廿八「ロ」ナリシカ故ニ之ヲ決メ秤量ニ等セ  
テ殆ント一萬噸ニ至ラントスルノ巨額ニ及ヘリ余之ヲ測ク日

本人カ米穀ヲ海外ニ輸出スルヤ固ヨリ外國商賈ノ手ヲ假ラフ  
ルニ非スト虽モ損益ノ高算ニ至テハ躬自ラ之ニ任スルカ故ニ  
其原價ノ若干ナルヤヲ詳スルニ至テハ蓋亦難シ然レハ今年ニ  
於テ本地ノ呼價ハ一「ロ」付一兩九十五「ロ」乃至二兩三  
十「ロ」ノ間ニ在リシヲ以テ今之ヲ今時ノ龍動市價ニ比較シ  
テ臆想シ來ルハ彼ノ傾主ハ非常ノ損害ニ陥リタルヲ証スル  
ニ足レリ

推算及々寒天

此両品ノ輸出高ハ十三万七千五百兩ナリシカ故ニ之ヲ千八百  
七十五年ニ比較スルハ其輸出ノ頗ル増多スルヲ証スルニ足  
ル而シテ之ヲ輸出スル者ハ悉ク支那人ニシテ他ノ外國人ニア  
ラス

乾魚



乾魚ノ輸出高ハ九千二百四十ポンドニシテ其價格ハ十六万七千四百二十三弗ナリキ

昆布

支那國ニ向テ輸出スル昆布ノ量ハ二万四千三百六十一ポンドニシテ其價格ハ七万二千二百九十六弗ナリキ

硫酸

硫酸ノ支那ニ向テ輸出スルヤ其量極ニ夥シ現ニ千八百七十五年ニ於テハ五百三十七ポンドニシテ其價格三千〇〇四弗ナリシカ千八百七十六年ニ至テハ六千四百十五ポンドニシテ四千四百四十二弗ノ巨額ニ及ヘリ蓋該品ハ大坂造幣局ノ製造スル所ニ係リ之ヲ輸出スルヤ支那地方ノニ限リ未タ他國ニ波及スルニ至ラス

扇子

千八百七十六年ニ於テ本邦ヨリ輸出シタル扇子ハ殆ント百万本ノ多キニ至リシヲ以テ之ヲ前年ニ比較スルハ其計數ニ就テコソ著ルク其輸出ニ増進スル所アル其價格ニ至テハ全年ヲ俟リ算スルモ唯々九万五千弗ニ過キカルカ故ニ價格ノ點ヨリ觀察シ来ル片ハ未タ以テ其輸出ノ前年ニ超過スルノ甚シキト云ヘカラサル也是レ他ナレ全年間ニ於テ輸出シタル扇子ハ百本ニ付キ其價九十セント(墨斯哥銀)乃至二弗ノ間ニ在リシヲ以テ也夫全年間ニ輸出スル扇子ハ千八百七十五年ニ比スレバ其價格ノ低減スルヤ斯ノ如ク其甚シキニ至ルモ竊ニ外國商賈ノ情状ヲ察スレバ實ニ憫諒ニ堪ヘサル者ナキニ非ス何ツマ合衆國ノ市場ニ於テ該品ノ鬱滞スル自ニ之ヲ輸入スル者ノ危険ナルニ至レド也

今夫外國商賈カ翌年即チ千八百七十七年ノ為メニ預メ購入ノ

約ヲ締スルヲ見ルニ其價格ハ従前ニ比スレバ既ニ三割ヲ減シ  
タリ此ヲ以テ考フレバ他日輸出スル所ノ扇子ハ著ルキ減差ヲ  
生スルニ至ルヘシ

抑談品ノ貿易ニ至テ著ルキ減減スル所以ハ蓋シ其原因ナキニ  
非アル也夫日本商賈ハ良シヤ一時ニ於テハ數万ノ扇子ヲ賣却  
スルノ好機ヲ得タルモ外國商賈ノ敏捷ナル躬自ヲ損失ニ陷ラ  
フランカ為メニ夙ニ之ヲ購入高ク減却シ或ハ全ク之ヲ購入ラ  
止ノ以テ他日ノ反動ニ備ヘカル者ヲランヤ果シテ然ラハ今日  
ノ衰減ハ全ク日本商賈カ自ラ招ク所ノ禍ナリト云ハフル可カ  
ラス

今ヤ過ル三箇年間ノ於テ日本人カ扇子ニ依テ収ムル所ノ金額  
ヲ平算スルニ之ヲ従前ニ比スレバ殆ント其半額ニ減セリ是蓋  
日本國內ニ於テ雇直ノ低減シタルニ依ルカ抑亦曾テ利潤ヲ収

ムルノ甚ク多キニ依ル乎 二原ニ出ラズンバ非アル也

談品ノ輸出ハ依然ニシテ米國商社ノ手ニ在テ存セリ是必竟歐  
羅巴諸國ニ於テ扇子ノ需求尠キカ為メ也

前ノ數品ヲ除クノ外頗ル主要ニ屬スル者ノ輸出ヲ掲ケハ藥種  
ハ一万。八百三十斤ヲ輸出シ人參ハ三万五千五百十七斤。漆器ハ  
一万八千八百八十六斤。獸脂ハ八千九百九十八斤。麥粉ハ六千九百  
。一十斤ヲ輸出シ其剩ル所ノ五万七千五百五十二斤ハ悉ク雜貨ノ  
輸出ニ係ル

獸畜ノ輸出ハ漸次減却シテ猶未タ止ス是日本人ノ肉食スル日  
々ニ多キヲ加フルカ為メニシテ之カ供給ニ於テ感觸ヲ生スル  
ヤ亦蓋尠ク非アル也

船隻ノ出入

千八百七十六年ニ於テ英船ノ兵庫港ニ出入スル其數百廿五艘

ニシテ十二万七千八百九十一噸ヲ為スル故ニ之ヲ前年ニ比較  
スレバ其數十六艘ト四万三千三百〇九噸ヲ増加シタレ也又全年  
間ニ出入マレ汽船ノ數ハ十四艘ニシテ四万九千九百三十六  
噸ナリ但具ニ艘ハ米穀ヲ塔シテ直ニ英國ニ向テ航シ他ノ一艘  
ハ茶葉ヲ載マテ米國ニ向テ直航セリ  
又帆船ノ三艘ハ米穀ヲ塔シ他ノ三艘ハ尋常貨物ヲ載セラ直ニ  
英國ニ向テ開帆シタリ夫英船ノ本港ニ出入スル者ハ斯ノ如ク  
ナルカ故ニ千八百七十六年ニ於テ出入マレ汽船ハ通常其噸積  
ノ甚ク巨大ナルニ拘ラス之ヲ全年間帆船ノ出入スル者ニ比較  
スレバ其艘數ハ殆ント帆船ト相半スルニ至レリ  
米國ノ船隻ハ六十七艘ニシテ十一万四千百九十九噸ナルヲ以  
テ之ヲ前年間ノ出入ニ比スレバ其數ハ九十七艘ヲ減シ其積ハ  
六万五千二百六十九噸ヲ減スルニ至ル但「バグ」号汽船ノ出

入總計五万三千五百噸ニ至ル者モ亦昨年間ノ統計中ニ算入マ  
リ  
日身曼ノ船隻ハ十八艘ニシテ四千七百四十四噸ヲ為スル故ニ  
之ヲ前年ニ比較スレバ其數ハ六艘ヲ減シ其積ハ七百十六噸ヲ  
減スルニ至ル  
千八百七十六年ニ於テ本港ニ入進セル魯西亞船隻ハ汽船一艘  
ニシテ四百九十八噸ヲ為シ支那ノ汽船ハ二艘ニシテ其積三千  
百八十噸ヲ為セリ  
右ニ記スル所ハ千八百七十六年間本港ニ出入セル商船ノ總計  
ニシテ此數者ヲ除外シ絶テ本港ニ出入セル外國ノ商船アル  
ヲ見カリキ  
昨年間本港ニ於テ英國立法院ノ議官タル「チー」ブラッメイ氏ノ所  
有ニ屬シ合氏ノ指揮セル遊船「アンバー」号ノ入進セルハ實

記載スルニ足ルハキノ一事タリ是レ他ニ非ス英國遊船ノ本  
 港ニ入進シタル。此時ヲ以テ始メトスレハ也  
 通貨

左ニ掲ケル所ノ計表ハ千八百七十六年第十二月三十日日ヲ以  
 テ終ル一周年間大坂造幣局ニ於テ鑄造シタル貨幣ノ總額ヲ示  
 ス者ニシテ全局長官ノ懇勸ニ余ニ送附スル所ニ係ル

貨幣之種類	秤量	箇數	價格
金貨	四三三四九七	一四九、四四二	七七一、三八〇。
銀貨	四、九三三、四八六三	二八、一六六、八八九	四、八三三、七二八、三五
銅貨	三三、三三四、九一八、五五	八八、一五八、九五四	一、〇一八、三〇、二八五
通計	三、七、五、六、九、六〇、二、一五	一、一六、四、七、五、二、八五	六、六、一、三、四、五、二。
貿易銀 <small>前ニ突入スル 者ヲ再ニ加算ス</small>	一、三、三、五、一、七三、〇、八	一、五、一、四、九、三、二	一、五、一、四、九、三、三〇。

兌換

本港ニ於ケル「ステルリン」英貨ノ為換相庭ハ概テ橫濱ノ相庭ニ  
 随テ交換シ其差異ニ至ルハ品底共ニ五先(百分ノ)半ニ過キワ  
 リト是レ橫濱ト神戸ノ間ニ現貨ヲ輸送スルノ經費ヲシテ然ラ  
 シムルハ也

千八百七十六年「ステルリン」兌換相庭ニ於テ其昂低ノ甚シ  
 ク且劇烈ナリシハ數年以來未ダ曾テ見聞セラル所ナリ將々夫  
 六箇月受取ノ為換証券ハ墨銀一帛ニ付キ三司令九邊尺四分  
 乃至四司令六邊尺半ニ在ルヲ以テ其間ノ差違ハ大約二分ナリ  
 トス蓋テ八月ニ至テ違ニ為換相庭ノ騰貴シタルハ歐洲諸國ニ  
 於テ養蠶ノ不作ナルヤ為メニ日本生糸ノ需求ヲ増シタルハナ  
 リ想フニ斯ク為換相庭ノ違ニ騰貴スル際於テハ巨多ノ資本  
 ヲ儲蓄スル高價ノ為メニ或ハ浮利ヲ射スルノ好機ヲ與フル  
 魚キニ非ワレバ貿易ノ景况一服ニ盛ナルハ却テ為換相庭ノ變

更甚レカラケルノ時ニ在リト云ハサル可キ何トナレハ高賈ノ事業ハ此時ニ於テ始メテ著実ナルニ至レハ也  
日本ニ於テハ墨斯哥銀ヲ以テ「ステルリ」ニ比較シ以テ之カ為換相庭ヲ定ムルモ上海ニ於テ然ラズ其相庭ハ兩銀ヲ以テ比較スルヲ恒トス蓋千八百七十六年ニ於テ兩地ノ為換相庭ハ墨銀百兩ニ付キ七十二「テ」ル四分一乃至七十七「テ」ル四分一ナルヲ以テ大約六分百分六四分三ノ差ヲ生シ其平均ハ墨銀百兩ニ付キ七十四「テ」ル乃至七十五「テ」ルナリ  
今夫内地派用ノ通貨ニ就テ說ニ譬ハ茶葉樟腦木蠟ノ如キ日本ノ輸出品ハ皮相ニ於テコソ墨銀ヲ以テ購入スレ其實相ニ至テハ概テ日本ノ紙幣ヲ授與シ其金銀貨幣ヲ用ナル極メテ稀ナリトス其故何トナレハ外高カ日本産ヲ購入スル本地在留ノ外國銀行ヨリ發行スル墨銀ノ預手形ヲ授與スト虽モ日本銀行

ハ直ニ之ヲ携帶シテ日本紙幣ニ交換セシヲ要レハナリ其輸入品ヲ購入スルニ至テハ全ク之ニ及レ日本人ハ日本銀行ノ墨銀預手形(日本紙幣ヲ以テ購求シタル者)ヲ以テ之カ代價ニ宛ツ是レ本港ノ慣習之ヲシテ然ラシムル也  
日本紙幣ノ價格ハ日トシテ變換セカシ然レ現ニ千八百七十六年ニ於テハ墨銀ニ比スレハ四分百分四ノ減差ヲ生セリ(橫濱ノ相庭ニ從フ)然リト虽モ日本人ハ其携帶ニ便ナル故ヲ以テ之ヲ貴重スルマ却テ金銀貨幣ニ優レリ  
墨斯哥銀ノ通用ハ猶未タ開港場ノ外ニ及ハズ大坂ニ於テハ實ニ其通用ナレト云フモ可ナリ

錢道

神戸ヨリ大坂ニ至ルノ錢道并安治川口ニ達スルノ支線(供テ廿二英里)ヲ駛行スル瀛車ハ發着ノ時間正シク又曾テ異變ノ生ス

スル魚ク連綿トシテ兩地ノ間ヲ廻旋セリ

兵庫ニ於テ、既ニ繫船所ノ築造ニ着手シ今マ除波村ヲ樹立シテ鎖少ノ工事ヲ竣ヘリ又大坂停車場ニ於テ貨物水漕ノ便ニ備ルカ為メニ專ラ船艚ノ修造ニ從事ス若シ此業ヲシテ果シテ竣エナラシメバ貨物ヲ舟艇ニ装シテ直接ニ該場ニ漕運スルハモ今日ノ安治川口ニ於ケルカ如クナル可シ

大坂ト京都ノ間ノ鐵路ハ開業式ノ期既ニ迫ルヲ以テ竣工殊連ラ告ケ大坂ヨリ向町(向町)京都ヲ距ル四英里ノ間ニ在リ連ルノ線路ハ第七月十四日ヲ以テ開業シ次テ大官通り假停車場ニ達スル者(四英里)ハ第九月五日ヲ以テ開業セリ然リトモ其線路ノ限界ナル京都停車場該場ハ煉瓦石屋ニシテ荅尚石ヲ以飾ルニ層ノ大厦ナリノ如キハ當時猶未ク築造ノ工ヲ竣ルニ至ラズ

此他大坂ト京都ノ間ニ於テ工事ノ窠モ緊要ナル者ハ圖書河神崎河、茨木河、織田河、桂河、架スル橋梁ノ築造ナリトス蓋シ此數橋ハ、ワルレンノ模様ノ錢桁百トナシテ架設シ各々五十三、二、一、十二ノ割合ニ依テ成レリ又兩地ノ間ニ於テ許多ノ細流陰渠死ハ洪水ノ為ニ開鑿スル溝渠アルヲミナラズ屢々洪水ノ暴漲スルニ逢フカ故ニ其事業タル蓋シ容易ニ非アルヲ想像スルニ足レリ

之ヲ要スルニ彼ノ橋梁ノ築造ニ至テハ實ニ完全ニシテ高層ヲ其間ニ容ルヘキ者ナク之ヲ守内ノ工事ニ比スルモ敢テ愧ル所ナカレ可キ也  
此後ニ於テハ復タ緊要ノ工業ヲ企圖スル者アルヲ聞カス是ニ於テカ余ハ頗リニ追悔シテ禁スル能ハサルノ一事ナキニ非ス何ソヤ彼ノ錢道ヲ修築スルト今時ニ於テ琵琶湖ニ沿ヒ大津ニ

二達スレ 線路ヲ設ケタル是レナリ抑大津ト京都ノ間ハ僅ニ  
十英里ノ距里ニ過キス然ルニ今マ貨物ヲ兩地ニ搬運スルニ或  
ハ馬ヲ役シ或ハ運車ヲ用フルアリ然レテ今日ニシテ鐵路  
ヲ築造シ以テ兩地ノ搬運ニ供スルアラシメバ其築造費ノ如キ  
ハ必ス西方ノ地ヨリ輻輳スル貨物ニ課スルモ猶之ヲ償フニ足  
ロリト信スル也

千八百七十六年間神戸、大坂、京都ノ汽車ニ依テ往來スル乗客  
員數及ヒ其賃金等ニ即チ左ノ如シ

乗客ノ員數 百十四万〇八百三十六名

乗車賃 廿七万三千〇八十六圓

行李運送賃 九千六百七十九圓

貨物運送賃 二万一千八百六十九圓

運送貨物 三十七万四千九百四十八ト四クビ

大坂ヨリ向町ニ達スル鐵道ハ千八百七十六年第七月十四日ニ  
於テ開業シ其京都ニ到ルヘキノ線路即チ大宮通りニ達スル者  
ハ葦九月五日ニ於テ開業シ以テ衆庶ノ行旅ヲ便ニセリト雖モ  
大坂ト大宮通ノ間ニ於テハ當時猶未ク貨物ヲ運搬スルニ至ラ  
カリキ  
神戸ノ鐵道埠頭ハ過ル第七月八日ニ於テ全ク其工事ヲ竣タリ  
此ニ於テカ本港ニ入進スル船隻ハ該埠頭ニ接シテ直ニ鐵道作  
車ヨリ貨物ヲ装卸スルノ便ヲ得タリ蓋其時ヨリ全年ノ終ニ至  
ル迄該埠頭ニ接列スル船隻ハ百十八艘ニシテ概チ三菱會社ノ  
所有ニ係ル巨大ノ船隻ナリ

道路

京都ヨリ琵琶湖ニ泊テ大津ニ達スルノ道路ハ實ニ日本國內ニ  
於テ無比ノ惡路タリシカ昨年ニ至テ全ク修繕ノ工ヲ竣ヘ今ヤ

邦内他ノ六類ノキ至良ノ道路ト成レリ蓋其道幅ハ三十「メートル」ニシテ之ヲ修繕スルノ經費ハ三萬五千圓ナリ而シテ其修繕費ヲ支償スルノ方法ハ運車一輛ニ付若干ノ税ヲ課スルニ在リト云フ此ニ於テカ余ハ竊カハ愕ル所ナキニ非ス今ヤ日本ノ識者ハ其政治ノ為メニスルト貿易ノ為メニスルトテ問ハス善良ノ道路ヲ築造スルノ實ニ緊要缺ク可カラサルノ事業タルヲ解得スルニ至レルヲ故ニ唯切ニ冀望スル所ハ此道路ヲ以テ將來摸範ト為シ漸ク以テ全國內ニ及ホスノ盛舉ヲランテヲ

工業

黏土(英語ボンドライム)兵庫新聞ニ於テ日本國內黏土ノ製造ト題スル一篇ヲ載セタリ蓋全篇ノ趣旨タル頗ル裨益スル所ナキニ非ス依テ茲ニ之ヲ掲載ス

黏土、何ノ國ニ於テモ之ヲ製造スル魚キニ非スト虽モ其之ヲ製出スルノ家モ多キハ日本ニ若クハ無シ蓋其物タル内地ノ商品ニ就テハ頗ル主要ナル者ニ属スルカ故ニ其製造ニ従事スル者ノ如キモ魚慮數千人ニ下ラスト云フ

「モチ」ヲ漢語ニ訳シテ黏ト云ヒ又「餅」ト混全スル勿ランカ為メニ「トリモチ」ト云フ蓋其辞タル善ク物質ノ性ヲ説得テ明瞭ナリ而シテ英語ニ於テハ即テ捕鳥粘質物ト訳スヘシ抑黏土ノ製造於ケル大和國芳野郡ヲ以テ矯夫トシ次第ニ南地ニ擴リ方今ニ及テハ黏土ノ繁産スル地ニシテ之ヲ製造マケルハ魚シ蓋其製造ヲ發明スル年月ニ至テハ或者今ヲ距ルテ五百年前ナリトシ或者三百年前ニ在リト云ヒ未タ一定ノ確證ヲ得スト虽モ後世ニ至リ、黏土ノ製造益々盛ナルニ及テハ黏土ノ皮ヲ脱スル愈々多クシテ該樹ハ為メニ枯死スルニ至リ遂ニ今ヲ距ル廿年以降



黏黏ノ市場ニ送ル者甚ク大ニ需給ノ状ヲ一変セリトノ  
説、蓋信依スルニ足ルヘキ者ノ如シ黏樹ノ枯死スル所ノ如ク  
ナルカ故ニ二三ノ製造者、茲ニ憂慮ヲ凝シ其全皮ヲ剥脱スル  
ヲ止メ若シ樹皮ノ一部ヲ以テ今年ノ製造ニ充テ其剩餘、明年  
ヲ俟テ剥脱シ如斯シテ互ニ輪流セシメ、或ハ黏樹ノ枯死スル  
ヲ免ルヘシトシ之ヲ實際ニ試ミタレト現ニ其剩餘ヲ以テ製造  
シタル者ノ善良ナラサルカ否ニ其全圖ヲ廢絶スルニ至レリ  
大坂ノ黏黏ノ大市場タルヲ以テ其乾物屋ニ貯蓄スルマ極メテ  
夥シク實ニ其本店ハ天満街ノ近傍ニ在リ而シテ方今ニ於テ黏  
黏一「<sup>ト</sup>」<sup>ト</sup>百三十三磅三分一」<sup>ト</sup>十三四乃至十六四ノ價直ヲ有  
ス蓋大和、紀州、土佐、阿波、伊豫等ニ産スル黏黏ハ絶テ皮膚ノ混和  
スル無ク頗ル白色ニシテ凝結塊ヲ為シ甚シキ粘着カヲ帯フル  
ノミナラス之ヲ貯蔵シテ歲月ヲ閱スルニ至ルモ敢テ其効カラ

変スル無シ斯之ヲ善良ノ黏黏ト為ス其薩摩、長州、豊後、伊勢、美濃  
等ニ産スル者ニ至テハ頗ル下等ノ品種ナリ而シテ此數國ノ北  
ニ於テハ曾テ黏黏ヲ産スル魚キカ故ニ其北地ニ在テ膏買スル  
者ハ悉ク大坂及ヒ他ノ南國ヨリ搬送スル所ニ係ル  
黏樹ハ日本ノ南地ニ於テ山谷ノ間日光ノ射セラル所ニ生殖シ  
四時鬱蒼トシテ其色ヲ改メ故ニ日本人ハ之ヲ庭内ニ移植シ  
テ佳趣ヲ添フルノ一端ニ供ス吾人若シ大坂停車場ノ前庭ニ到  
ラハ現ニ黏樹ノ青々タルヲ目撃スルヲ得ヘシ其皮ハ青灰色ヲ  
帯ヒ其葉ハ深綠色ニシテ軟滑ナリ而シテ其葉莖ハ各々相接シ  
テ離レヌ之ヲ英國ノ「<sup>ト</sup>」<sup>ト</sup>葉ニ以スレハ肉多クシテ稍々卵  
形ヲ為シ葉莖短縮シテ邊端ニ尖針ヲ見スルノ異アルノミ且漆  
葉ノ如クハ殊ニ細小ニシテ殆ト肉眼ヲ以テ見ル可ラフルニ至  
ル又花時ニ於テハ數輪ノ細花ヲ發シ恰モ黍穂ノ状ニ異ナラス

歳  
首

且其表皮ノ如キハ草花ニシテ十字形ヲ為シ花心ニ二箇ノ雄葉  
ヲルヲ見ル而シテ其凋零スルニ及テマ悉ク中央ニ向ク而シテ  
後ニ飛散ス

日本ハカカニ製造ニ於ケル蓋一朝一夕ニシテ其工ヲ畢ルニ  
非ス歳ノ六月ニ於テカニ樹ノ全皮ヲ剥シ水ニ浸ステ四十有餘日  
而シテ後ヲ始メテ搗碎ス但シテ搗碎スルマハ皆モ一艘ノ玄米ヲ  
搗精スルノ方法ニ異ラスト虽氏其杵ニ至テハ自ラ彼ト全カ  
ス何トナレハカカニ製造ニ於テハ杵底ニ巨大ノ鉄釘ノ林立ス  
ルヲ見レハ也皆テ春内ノ樹皮変レテ軟塊ト為リ漸ク粘着スル  
ニ至レハ清水ヲ以テ之ヲ洗滌スルテ其幾回ナルヲ知ラス是粉  
メテ皮屑ヲ除去セシカカニ也斯ノ如クシテ後チ之ヲ春内ニ投  
シ再々搗碎シテ熱湯ヲ滌クハ彼ノ軟塊ハ自ラ春内ニ浮動ス  
工人ハ此時ヲ期シ猶餘屑ヲ除去セシカカニ頻リニ手術ヲ施

スカ故ニ其餘屑ハ自ラ春底ニ沈澱レテ稍々カカニ状ヲ見ルニ  
至ル蓋カカニ製造ニ於テ其最モ難ニスル所ハ此際ニ施ス所ノ  
手術ニ若ク者ヲテス何トナレハ彼ノ軟塊ノ垢頭ニ附着スルヲ  
防カンカカニハ多少練達ノ功ヲ經ルニ非ザルヨリハ復決シ  
テ施スヘキノ術ヲケレハ也茲ニ熱湯ヲ滌キ施術既ニ畢レハ再  
々冷水ヲ滌テ之ヲ春内ニ投シ或ハ搗碎シ或ハ煎熬シ或ハ洗滌  
スルテ數十回ヲ經ルニ非ザレハ決シテ純精ノカカニ得ルニ至  
ラザル也而シテ此數回ノ製法ヲ經ルニ隨テ大ニ其ノ量ヲ減ス  
ルニ僅ニ原量ノ十分一ニ過テカカニ故ニ若シ良製ノカカニ五  
分ニ至リテ得ント欲セハ須テク二百五十「カワチ」ノ樹皮ヲ費  
サ、ル可カニスト云ヘリ

日本國ニ於テカカニ使用スル其方法甚々多ク實ニ衆人ノ想像  
シ難ハカカニ所ノ者ヲシトセス而シテ之ヲ使用スルニ於テ第一

目的ト一ル所ニ鳥獸ヲ捕獲スルニ在リ夫獸類ノ黏黏ニ於テ  
ル一ク之ニ餌ニ、中ニ自ラ探動レテ黏黏ノ全身ニ逆ルラ悟  
ラス疲勞ノ極終ニ人ノ手中ニ落ルニ至ル勢ニ至レハ猿猴  
ノ大ナルモ之ヲ捕獲スルニ益易々クルル、ト又長州ノ東岸ニ  
於テ水鳥ノ海上ニ浮動スル者ヲ捕獲スルニ黏黏ヲ以テス其  
法タル藤綱ニ黏黏ヲ塗抹レテ海中ニ投レテ去ル片ハ明且必  
ス數羽ノ海鷗ヲ得ヘルト抑々此捕鳥ノ法タル實ニ簡單ニ  
テ經費ヲ要スルノ最モ少ナル者ト云ヘレ何トナレハ彼ノ藤  
綱ノ如キハ屢々之ヲ使用スルモ敢テ毀損スヘキニ非ス唯々黏  
黏ノ乾燥スルヲ見テ始メテ其新鮮ナル者ヲ塗抹スルニ過キ  
レバ小鳥ヲ捕獲スルニ二法アリ其一ハ尺餘ノ地ヲ区畫レテ  
穀粒ヲ撒布レ裂竹ノ上端ニ黏黏ヲ塗抹スル者ヲ以テ之ヲ罔ニ  
傍ニ媒鳥ヲ放テ以テ小鳥ノ飛來レテ自ラ之ニ餌ル、ヲ俟テ

捕獲ス其ニハ長竿ノ頭部ニ黏黏ヲ塗抹スル者ヲ擲ヘテ谷所ニ  
徘徊シ小鳥ノ枝間ニ宿ルヲ窺テ之ヲ投レ以テ捕獲ス家鼠ヲ捕  
ルニ法ハ一片ノ板如クハ紙ニ黏黏ヲ塗抹レテ之ヲ鼠穴ノ傍ニ置  
クヲ常トス又夏日ニ於テハ少量ノ黏黏ヲ竹葉ニ塗抹レ蠅或ハ  
他ノ小蟲ヲ捕フル日本國內皆然ラケルハ魚ニ且夫黏黏ヲ以テ  
床間ノ蚤ヲ捕獲スルアリ其法ハ一片ノ板ニ黏黏ヲ塗抹レ裂竹  
ヲ彎曲レテ疎ラニ板ノ両端ニ挿ニ以テ半球ノ形ヲ為ラシム此  
具ハ恰モ英國ニ於テ焙麵包ヲ盛ルノ器ニ髣髴トシテ唯々握柄  
ヲ附マサルノ異アルノミ而レテ彼具ニ裂竹ヲ彎曲スルハ必竟  
寢衣ノ穢ニ、ヲ防カシカ為メ也夫捕蚤具ノ結構クハ既ニ此ノ  
如シ之ヲ如何ノ蚤虫ノ夜襲ヲ謀ルハ自テ運命ヲ殘スルノ基タ  
ルヲ怪シマ  
又黏黏ヲ以テ一種ノ眼病ヲ療スルニハ之ヲ熱湯ニ溶解シテ注

附マシム武、疝氣、疝スレ、用、或、傷痍ヲ療スルニ供ス其膏藥ノ如キ、之ヲ製スル必ス少量ノ黏麩ヲ混和セラルル魚シト云フ

蓋黏麩ヲ授受スル其指頭ニ附着スルヲ防カンカ為メ、或、油ヲ以テシ或、水ヲ以テスル魚キニ非スト虽氏通常竹屑ニ卷テ之ヲ授与スルガ多シトス而シテ何ノ地ヲ問ハス八百屋ニ就テ之ヲ求メ、立口ニ并マカル、魚シ今ハ將ニ筆ヲ擱セントスルニ臨ミ尚一言ノ記マカル可テアル者アリ何ソヤ彼ノ黻屋ニテ販賣スル所ノ黏麩、小麥ヲ以テ製造スル者タルカ故ニ其質良カラズ若シ之ヲ貯畜シテ數日ヲ閱マ、其粘着力ノ消尽スルヤ復タ使用スルニ足ラサルノイ

一般ノ景況

余カ曩ニ進呈セル報告書ニ於テ、日本製紙會社ノ建築日カニ緒、就テ將カニ落成スルニ至ラントスルノ状ヲ載セタリレカ昨年ニ至テ、其工全ク竣リ第十月中旬以降、陸續トシテ製紙用ニ供スル「ポル」爛布ノ煮テ軟塊ト為マヲ製造セリ此製紙會社、外國人居留地ノ外ニ在ルヲ以テ該場内ニ瓦斯ヲ通スルノ事項ニ関シテ兵庫縣令トノ間ニ紛紜ヲ生シ今日ニ及テ近其結極ノ如何ヲ了スルニ至ラスト虽モ該場社負ノ意ハ以テラク若シ速ニ兵庫瓦斯會社製造ノ瓦斯ヲ使用スルノ准許ヲ得ルニ非カンヨリ、寧口自ラ之ヲ製造所ヲ新築シ該場ニ須要ナル點火ノ用ニ供スヘシト異レテ新ノ如クナル片ハ今日「ポル」製造高一日ニ付キ一噸半ナルヲ増加シテ三倍スルニ至ルヘシト思

今ヤ該會社、監督ニ外國人ヲ除テ女工八十九名ト男工三十九  
名トヲ雇役ス然レ他日其製造晝夜ヲ兼ユルニ至ラ、女工  
二百名ト男工七十名ト、恒ニ雇役スルニ足ルヘシト云ヘリ  
蓋該會社製造ノ、ホルブ、当初ニ於テ、專ラ外國へ輸出スルノ  
目的タリシヲ以テ此回ノ報告書ニ於テモ亦千五百噸ノ輸出  
高ヲ記載スルヲアルヘシト信シタルニ料アリキ其市場ノ却テ  
内地ノ製紙場ニ在ラント、見ヨ今日日本人設立ノ製紙場ニ於  
テ之ヲ購入シ以テ製紙ノ用ニ供スル陸續トシテ相續キ現ニ該  
會社ヨリ大阪製場ニ送ルノ量甚タ多ク其京都製紙場ニ送ルノ  
期モ亦將リ、遼遠ニ非カレヘシ  
該會社、本月初旬頃、ホルブ製造中ニ於テ少シク器械据付等ニ  
不充分ナルヲ覺知シタルカ故ニ今ヤ其業ヲ休メリ  
前回ノ報告書ニ記載セル游园、修築殆ント其工ヲ終ヘ今ヤ開

場ニテ衆庶ノ來觀ニ供ス其纒結草ヲ植スルノ區域タル亦極メ  
テ廣濶ニシテ其一部ハ打蹴球ノ遊戯ニ供ス其餘ハ投球其他ノ  
遊戯ニ供ス又該園内ニ於テ清潔ナル一字ノ納涼館ヲ築造ス之  
ヲ要スルニ修築既ニ其工ヲ竣タル者ニ就テ論スレ、該園到ル  
處トシテ清快ヲテアル魚ク居留外國人ノ茲ニ到ル駱駝トシテ  
其跡ヲ絶マカレニ至ル  
昨年間ニ於テハ公共ニ屬スル工事ノ記載スルニ足ルヘキ者ニ  
着手スルヲ見ユ將々外人ノ居留地ニ於テハ猶依然トシテ夜間  
瓦斯燈ヲ點シ又市街ノ掃除ヲ怠ラズ巡查カ殊ニ居留地ヲ邏衛  
スルニ極メテ嚴密ナリ  
千八百七十七年第二月五日ニ於テ日本天皇陛下、其大臣及  
外國公使ヲ從ヘテ兵庫大坂京都ノ間ニ在ル錢道ノ開業式ヲ行  
ヘリ

千八百七十六年第十二月三十一日。於テ兵庫ニ居留スル英國ノ臣民、小児ヲ除テ其總數百六十二名ナリシハ故ニ之ヲ前年同ニ比較スルニ曾テ増減スル所ナレ

○大坂

大坂ノ外國貿易ノ頻ニ衰減シテ止ス殊ニ其輸出ノ如キ、千八百七十四年ニ於テ、五十六萬六千五百三十七兩ノ巨額ナリシカ千八百七十五年ニ及テ、廿二萬五千〇廿一兩ニ減レ千八百七十六年ニ至テ、九萬九千七百廿二兩ニ減却レタリ

輸入	兩	輸出	兩
千八百七十五年	六〇五、五二〇	千八百七十五年	二二五、〇二一
千八百七十六年	四〇六、〇八九	千八百七十六年	九九、七二二
減耗高	一九九、四三一	減耗高	一二五、二九九

大坂ニ於テ外國貿易ノ衰減スルヤ錢道ノ始メテ兵庫ニ通スル

起原ニ是余カ前回ノ報告書ニ記載スルカ如ク此地ノ貿易ヲシテ悉ク兵庫ニ輻湊セシメタルノ致ス所ナリ蓋シ大坂ニ居留シテ貿易ニ從事スルノ外國商賈、錢道開業後ニ至テ概テ兵庫ニ轉寓シ今ヤ英國商賈ニシテ猶依然トシテ大坂ニ開店スル者アルヲ見ス此ニ於テカ千八百七十五年間大坂ニ居留スル者十九名ノ外國人、昨年ニ至テ四十四名ニ減レ廿四名ノ英國商賈ニ減シテ十六名ト成レリ

工業

又昨年ニ於テ、外國船隻ノ大阪港ニ出入スルアルヲ見ス製紙場、毎日百束ニ十帖ノ一束トシテノ紙ヲ製出シ其幅、大阪日報ノ如クニシテ一束ニ四帖ニ價ス方今ニ於テ、專テ政府所用ノ紙ヲ製造ス

玻璃製造場、唯窓玻璃ヲ除、外各種ノ玻璃器ヲ製造セラル

魚

造幣局ニ於テ製造スル所ノ硫酸、毎日二噸半ノ多キニ及ツ又  
タ該局ニ於テ、方今頻リニ墨汁ヲ製造セリ

歎、其價直ノ低廉ナル其製法亦隨テ粗惡ナリ方今大坂ニ於テ  
、政洲ヨリ輸入ノ靴ヲ需ム者ナシ

大坂ニ於テ、襦衣、襯禪ヲ製造スル大約四百打ニ及ビ其價直、  
一打ニ付キ二圓廿五錢ノ割合ナリ今マ分製品ノ輸入ノ衰減ス

ル、蓋シ内製品ノ價直タル甚タ廉直ナルカ為也  
昨年間蓆帽ヲ製スル其數甚タ多ク其價直タル極メテ廉直ナリ

ト虽、其製法ノ未熟ナル之ヲ著ク、僅ニ數次ニシテ其邊端忽  
テ遍斷スルニ至ル又此項瓊帽ノ製造ヲ企ル者アリト虽モ未

其功ヲ奏スルニ至ラス  
藍靛、第五号乃至第六号ノ製法ニテ之ヲ製造スル甚タ多ク其

價直ハ一、カッケーニ付キ六圓三十錢乃至六圓五十錢ノ間ニ在  
リ

大坂ニ於テ製造スル聖筆、純白ニシテ其質極ノテ佳ナリ而シ  
テ之ヲ製造スルマ、毎日千箱ノ多キニ至ル但其價直ハ一箱十本

ハニ付キ六錢ナリ  
又方今大坂ニ於テ、石鹼ヲ製スル者ナキニ非スト虽、其未タ具

質ノ善良ナルニ至ラズ  
馬具及軍用品ノ如キ、砲兵廠ノ製造スル所ナリ而シテ其製法

ノ工ナル頗ル觀ルニ足ルヘキ者ナリ  
昨年間大坂ノ採取ニ関シテ、更ニ記載スルニ足ルヘキ者ナリ

本年、京都博覽會ト大坂ノ博物館ト、頗ル來觀者ノ多キヲ加  
ヘタリ

工。エ。ア。ン。エ。ス。レ。イ。の。名

フル。ハ。リ。ー。バ。ー。ク。ス。公。閣。下

Large empty table with multiple columns and rows, likely for recording transactions.

千八百七十六年十二月三十日 兵庫港輸入表 [第一]

毛布箱類	全	一四,〇六二	三,二〇〇
通計		二七一,五九四	五〇,三六四
毛綿布類	噸		八八五,一七五
毛綿布箱類	噸	一,〇八〇,三三一	三二二,四八〇
金屬類			
鑲錢	ピツカ	三六,六六二	一,二六,一六〇
錢塊	全	五,九六六	五,三六〇

總計

千八百七十六年十二月三十日

兵庫港輸入表 [第一]

Small handwritten notes at the bottom of the page.



千八百七十六年第十二月三十一日ヲ以テ終ル一週年間 兵庫港輸入表(第一)

英國及他ノ外國ヨリ輸入スル者

品名	數量	價	直 昇
綿布類			
金 巾	碼 一一,〇五七,二三七		五五六,〇二五
天 鷲 絨	全 八六〇,九九二		一七六,八四六
唐 棧	全 二八六,五〇〇		五〇,三〇八
寒 冷 紗	全 五三六,〇六七		四〇,五五二
更 紗	全 六七七,六三一		五〇,八五〇
綿 子	全 二四九,二四八		五〇,四九四
緋 金 巾	全 五六五,八九四		四六,五七〇
小巾金巾	全 二二八,九七〇		一四,三一八
綿 織 糸	全 五五七		一八,四九二
綿布雜類	全 七八七,八二七		五九,二二五
通 計			一,一六七,六四一
毛布類			
吳 呂	碼 三四,八九六		八六六二
羅 脊 板	全 五五,六八一		二〇,三〇七
「フラス」	全 四〇,五三七		九,六三六
羅 紗	全 一六〇七,一六九		三二〇,二七〇
綿 自 羅 紗	全 一八,五二六		一,二八三
綾 吳 呂	全 二三五,一〇〇		四〇,七三五
縮 吳 呂	全 六二一,五九三		一〇九,六三八
縮 綿 吳 呂	全 一,〇八七,七五四		二二二,七五三
「ストルス」	全 一四,五七九		一,八一〇
「ケランケツ」	磅 五三,一八五		二八,〇三二
毛 綿 子	碼 六六,四一三		二五,六四二
「ノリノ」	全 一四,〇六二		三,五〇〇
毛布雜類	全 二七一,五九〇		五〇,三六四
通 計			八八五,一七五
毛綿布類			
毛綿布雜類	碼 一,〇八七,三三一		二二二,五八〇
金屬類			
鉄 錢	「レツクル」 三六,六六二		一,二六,一六〇
錢 塊	全 五,九六六		五,三六〇

三ツ折

ハサミ

一 八

八七六、  
七六、  
七、  
七、



錢 線	「セツカ」	九五三	五三五八
錢 器			六、六四一
錢 雜類			六、八三八
銅			四、七八二
鉛 塊	「セツカ」	六七三	四、七八八
鉛 板	全	二二一	一、七九九
錫	全	五九八	一、二四三三
錢 線	箱	四〇〇	二、六〇八
亞 鉛	「セツカ」	一一一	一、〇六七
清 鉛 器			
黃 銅	「セツカ」	二三五	四、九四五
銅 雜類			一、〇六八
通 計	他國用品 二百六十九郡	總計二萬九千 七台集入	一八四、二〇七
外國 雜貨			
絨 類			三、九六三
施 綿 地			二六、三三八
卷 烟 叶	「セツカ」	三二	九、六一七
掛 時 計	數	一二二二	一〇、〇六七
衣 服			五、六一三
乾 糖 菓 及 漬 菓			二、四六二
石 炭			三、九〇四
綑 具	「セツカ」	二〇九	二、四四九
酒 類			并
麥 酒		一四、三三九	
「ホルトル」		一、〇八六	
「ブランデー」		五、一八九	
「シャンペイ」		四、二七三	
杜 松 酒		一、六三六	
「セリ」		三、三九四	
酒 雜類		六、八一八	
			三六、七三九
字 礦 靛	「セツカ」	三	一〇一〇
書 籍			二、七八四
乳 膏 及 乳 汁			六、〇〇七
鈕 釦			一、〇八〇
藥 種			一、二〇〇〇
漆 料			一、四三二〇
護 謨 布			一、〇〇五
麥 粉		一、三二九	五、八五四
家 具			一、三二七

窗玻璃	箱	一,五二一	一,五,六,七,六
玻璃器			一,二,三,三,六
手套		一,七,二,四	五,二,一,六
護謨			三,〇,三,四
帽	打	一,一,七,〇	八,五,八,四
牛馬皮	「皮」	二,一,七,〇	二,三,七,五,三
蹄	全	一,四,三,九	五,九,九,八
角	全	九,一,八	八,九,〇,三
工用器械			一,四,二,四
犁器及園引器			一,五,四,八
外科器			一,九,八
「ラン」			六,九,九,四
丹	「丹」	一,九,二	六,七,二
熟皮	全	六,八,二	一,七,六,〇,六
飲料			一,〇,六,八,二
畜獸類			一,〇,〇,〇
器械			一,〇,〇,六,八
摺附木			一,五,二,八,五
「カ」油			一,三,九,九
石炭油			一,二,九,八,八,四
油雜類			三,五,三,六
顏料			九,〇,九,〇
磁器			八,一,八,四
食料			一,六,九,九,一
水銀	「銀」	一,三,七	一,一,一,四,二
天秤			一,〇,〇,〇
襦袢及襟褌			一,五,二,五
靴及長靴	「靴」	七,八,〇	一,六,一,〇
化粧石鹼			二,五,二,二
洗濯石鹼	「洗」	二,二,九,八	一,二,五,三,三
文具類			二,五,九,九
棒砂糖	「棒」	一,四,一	一,六,九,九
茶鉢	全	三,三,四,七	二,六,一,六,八
頸巾	打	二,八,九	一,九,六,一
刺烟叶	「刺」	二,〇,六,五	一,二,〇,〇
浴巾	打	一,八,六,三	二,九,四,五
傘	全	三,三,〇,四	一,六,二,七,六
被時計		一,〇,三,六	八,二,三,九
雜貨			八,六,二,七,七
通計			七,六,二,五,九,七

但官用品、總計十三萬五千七百五十八册、合算

10

洋雜貨 總計

東洋雜貨			
赤砂糖	「セックル」	三九,一三〇	一二八,二二七
白砂糖	全	八,三七二	五七,五五〇
氷砂糖	全	一,三三七	一〇,四六八
綿 朶	全	一,三〇五	一九,二二九
紅 花	全	一,七六七	一二七,八三五
豆 類	全	三四,二三五	六七,九八四
味 籐	全	一七七	四七,三三五
籐	全	一,三三二	七,〇九一
龍 腦	全	二三	一一,四九三
麝 香	「セックル」	六九	四,七一
珊 瑚	全	二〇五	三,〇四七
沈 香	「セックル」	五四	三,三九八
蘇 木	全	一,八九五	三,四九八
唐 紙	全		一九,四九三
支 那 茶	「セックル」	二八	一,〇三九
全 絹	敷	五,〇九四	七,〇四七
全 木 綿	全	五,四四	二,一九一
象 牙	「セックル」	九八五	三,三六八
大 黃	「セックル」	九六	一,一九七
荷 包 用 筵			一,二六九
茶 筵			八,四三七
龍 甲	「セックル」	一,九五九	七,四三三
犀 角			六,二二五
海 馬 牙	「セックル」	一八	四,九七八
雜 貨			四,九八八

輸入要計畧表

綿布類		一,一六七,六四一
毛布類		八八五,一七五
毛綿布類		二二二,五八〇
金屬類		八四,二〇七
外國雜貨		七六二,五五七
東洋雜貨		五二六,二〇七
輸入總計		三,七六四,九六七

11

千八百七十六年第十二月三十一日ヲ以テ終ル一連年間 兵庫港之輸出表〔第二〕

英國及其他ノ外國へ輸出スル者

品名	數量	價	直井
骨糸	「ピツクル」 一、五九六	二九、三四九	
熨斗糸	全 九一	四、九三四	
生糸	全 二二三	六、一八一	四〇、四六四
茶	全 四七、五〇五	一、六六六、二八〇	
粉茶	全 五、八八六	二〇、八七一	
番茶	全 一、七二一	六、四三二	一、九八三
銅	全 四、三六五	九七、五二六	
銅 錠	全 八八六	一九、九二九	
銅 線	「ピツクル」 三二七	七、六一九	
銅 板	全 一〇九	二、三二〇	
			一、七四二四
蠟	全 一四、七一六	一三、一一九	
葉烟草	全 二、三九三	三〇、四一二	
樟 腦	全 八、三九三	一、二一、八四六	
乾魚類			
鮑	「ピツクル」 二三五	五、九八二	
鰯	全 九、三一四	七、一一八	
煎海蘆	全 一、五九五	五二、五四四	
鱈 鱈	全 二八六	一一、〇六九	
乾 貝	全 一、二八〇	二〇、八九五	
乾海老	全 九三〇	五、八九五	
			一六七、四二三
雜 貨			
米	「ピツクル」 一七二、〇九四	三〇二、六〇一	
推 茸	全 三、二二六	三三、九〇二	
板 昆布	全 一三、〇一九	二五、七六二	
刻 昆布	全 一、三四二	四九、五三四	
寒 天	全 九、四八〇	二四、二七六	
石 炭	全 四八、三三三	一〇、九一一	
鮑 貝	全 五三二	一、二三六	
藥 種	全 二、二四〇	一〇、八三〇	
人 參	全 三一四	三一、九一七	

扇子			九五、八一八
鍍銅		一三四	三、〇一一
鍍器		★手回	八、二〇四
漆器			一八、一八六
綿布類			七、四七七
食料			六、〇六七
磁器			一五、三九一
屏風			三、二二三
材木			七、九六六
筆			一、一八六
蜜蠟	「ビョウロ」	一九九	六、六三七
礪黃	全	一八五一	四、〇〇五
礪礮	全	六、四一五	一四、四四二
牡丹皮	全	七三一	三、一四四
竹器	全	二、五〇三	一、三七三
錢類	全	一、〇二三	三、七一三
寫字用紙	全	一九八	二、八一〇
馬鈴薯			一、二五七
獸脂	全	一、四一六	八、九九八
麥粉	全	五、四〇一	六、九〇一
鹿角			一、〇〇〇
雜貨			五七、一五二
通計			三、四〇一、二三〇

輸出要計畧表

絹		四〇、四六四
茶		一、六九五、五八三
銅		一、二八、四二四
蠟		一三一、一一九
烟草		二〇、四一二
樟腦		一、二一、八四六
乾魚		一、六七、四二三
雜貨		一、〇九六、九五九
輸出總計		三、四〇一、二三〇

17  
13

兵庫港船舶出入表(第三)

國名	入 港		出 港	
	艘 數	噸 數	艘 數	噸 數
貌列顛	六三	六四、三〇八	六二	六三、五八三
亞米利加*	三四	五七、九四九	三二	五六、六二〇
日身曼	九	二、三七二	九	二、三七二
魯西亞	一	四九八	一	四九八
支那	二	一〇、〇〇〇	二	一〇、〇〇〇
法朗西				
西班牙				
伊多利				
澳斯地匈牙利				
荷 蘭				
通 計	一〇九	一二六、三二七	一〇六	一二四、六九三
出入港總計		二一九艘		二五二、〇一〇噸
*郵便漁船「子ハダ」号		入 五三、五〇〇噸		出 五三、五〇〇噸

兵庫港輸出入税并船税表(第四)

輸入税	一六九、三一八、八弗
輸出税	一一〇、八二六
船 税	二、三七七
總 計	二七八、九二一

兵庫大坂兩港輸出入貨幣表(第五)

英國及其他、外國ヨリ輸入スル者	四、五四一、九〇〇、弗
日本、開港場ヨリ輸入スル者	七、八九〇、〇〇〇
輸入總計	一二、四三二、九〇〇
英國及其他、外國ニ輸出スル者	二、一三三、〇〇〇
日本、開港場ニ輸出スル者	四、一九〇、〇〇〇
輸出總計	六、三二三、〇〇〇
輸出入總計	一八、八八二、九〇〇

14

英連海船期表(三) 兵庫港外國商社及居留人負表(第六)

國名	商社	人負
親列類*	一七	二一三
亞墨利加	六	三七
日自愛	八	三八
法朗西	二	九
伊多利		二
澳斯地匈牙利		九
西班牙		
荷蘭	二	一九
葡萄牙		九
瑞西		二
丁林		九
魯西亞		一
總計	三五	三三九

\*廿七人ノ女子十四三人ノ小兒トテ合算ス

千八百七十六年十二月三十日ヲ以テ終ル一週年間 大坂港之輸入表(第七)

英國及(其他)外國ヨリ輸入スル者			
品名	數量	價	直 弗
綿布類			
哇金巾 碼	三七四七一		一七、八四八
織 糸 「ピ」	九四		一、八二〇
通 計			一九、六八八
金屬類			
熟 錢 「ピ」	一、〇一一		五、三三六
錢 線 全	一、一二九		六、六九一
錢 塊 全	一、〇五二		七、九三三
鉛 塊 全	六、〇三九		四四、九三七
鋼 全	六四		一、二七六
錫 全	二八七		六、二二九
錢 葉 箱	三二〇		七、八二

15



六、雜貨類外國貨類

品名	單位	數量	價值
通計		但實用品，總計五十九百八十三册，合第...	八〇・七七八
外國雜貨			
藥種			一・〇二五
窓玻璃			一・一七一
丹及黃丹			一・〇六四
熟皮			二〇・〇一三
顏料			一・二三六
磁器			一・〇九几
食料			一・一七七
洗濯石鹼			一・三三一
蒸氣船			三・五〇〇
秋時計			七・一三〇
雜貨			三〇・四五八
通計		但實用品，總計一万四千五百〇七册，合第...	六〇・二〇四
東洋雜貨			
白砂糖	kg	五・四三八	三六・五五七
赤砂糖	kg	一五・九六一	六〇・二四三
氷砂糖	kg	一・〇八〇	一〇・〇六九
紅卷	kg	四〇・四	二七・〇七二
味	kg	九六	七・七一七
漆料	kg	二四〇	一・七五一
龍腦	kg	五四〇	八・一六五
牛角鹿角	kg	三四五	三・〇九九
牛馬皮	kg	一・三〇七	一五・三六四
犀角	kg	三	三・三三七
蹄	kg	四一三	四・五四五
明礬	kg	一・六〇四	二・〇二一
木香	kg	一三八	一・四六八
籐	kg	二・一三八	一一・三〇六
大黃	kg	八九三	九・二〇四
蘘木	kg	一・〇六一	二・〇八三
白檀	kg	一・一六	二・〇一五
沈香	kg	三四	一・二五一
五倍子	kg	七七七	五・七九六
石膏	kg	四・四〇一	三・二三六
亞麻	kg	三一三	二・七四九
唐紙	kg		一三・三八〇
甘州	kg	五八二	二・四三一
雜貨			一〇・三二〇
通計			二四五・四三九

11  
18

外國雜貨  
計

綿布類	一九、六六八
金屬類	八〇、七七八
外國雜貨	六〇、二〇四
東洋雜貨	二四九、四三九
輸入總計	四〇六、〇八九

十八百七十六年第六月三十日ヲ以テ終ル一週年間 大坂港之輸出表(第八)

英國及其他、外國之輸出者				
品名	數	量	價	直 弗
銅版	「ピル」	九二	一、九五二	
銅類	全	二三六	九、五二四	
				七、四七六
蠟		二〇五		一、九四〇
乾魚類				
鮑	「ピル」	一二一	三、七一七	
錫	全	一、〇八六	一三、〇二九	
雜			二、一二九	
				一八〇、七五
雜貨				
椎茸	「ピル」	三二八		一五、六三二
板昆布	全	二、二三五	五、〇九四	
刺昆布	全	八三五	二、八〇四	
				七、八九六
發蠟	全	七七		二、八〇三
寒天	全	九六二		二四、八五、
牡丹皮	全	八四八		二、九二七
藥種	全	二、一一		六、〇四八
健實亞那	全	五八		一、七一四
紙	全	四三		一、〇八三
人參	全	三九		二、五四五
雜貨				五、九三四
通計				九九、七二二

17

輸出要計畧表

銅	七、四七六拜
蠟	一、九四〇
烟叶	
樟腦	
乾魚	一八、八七五
雜貨	七一、四三一
輸出總計	九九、七二二

大坂港輸出入税并船税表〔第九〕

輸入税	一五、九九八拜
輸出税	四、六三〇
船税	
通計	二〇、二二八

大坂港輸出入貨幣表〔第十〕

輸入	
輸出	

談港輸出入貨幣。總ノ兵庫港ヲ經過スルカ故ニ其統計ハ千八百七十  
五年ノ報告書ノ如ク兵庫港ニ合算ス

大坂港外國商社并居留人負表〔第十一〕

國名	商社	人負
觀列顛		六
亞墨利加	一	九
日耳曼	二	五
法朗西		七
伊多利		二
澳地利匈牙利		
西班牙		
荷蘭		三
葡萄牙		
瑞西	二	二
通計	八	四四

18

大坂港船舶出入表(第十二)

入港	
出港	

兵庫大坂兩港之輸出入貨物通計表(第十三)

	兵 庫 港	大 坂 港
英國及其他外國より輸入スル貨物ノ價目但シ貨幣ヲ除ク	三、七四八、九六七	四〇六、〇八七
兩港之輸入總計		四、一五五、〇五六
英國及其他外國へ輸出スル貨物ノ價目但シ貨幣ヲ除ク	三、四〇一、二三〇	九九、七二二
兩港之輸出總計		三、五〇〇、九五二
兩港之輸出入總計		七、六五六、〇〇八

兵庫大坂兩港之輸出入貨幣

英國及其他外國并日本開港場より輸入スル者	五、三三〇、九〇九
英國及其他外國并日本開港場へ輸出スル者	二、五五二、〇〇〇
輸出入總計	七、八八二、九〇〇

	兵 庫 港		大 坂 港		總 計	
	船 數	噸 數	船 數	噸 數	船 數	噸 數
入港外國船	一〇九	一二六、三一七	—	—	一〇九	一二六、三一七
出港外國船	一〇五	一二四、六九三	—	—	一〇五	一二四、六九三
兵庫大坂兩港之出入船舶			二一五艘		二一五艘	

